

30th サタデープログラムニュース

講座番号 6 番 第三部 (14:00~15:30)

一つの命が存在する奇跡

～余命3ヶ月からの生還!!小西博之が吠える～

講師 **小西博之** さん

(俳優・命のうた実行委員会代表。愛称は「コニタン」)



1959年和歌山県生まれ。2005年に腎臓癌の大手術を行い、90日に及ぶ壮絶な闘病の末、奇跡の生還を果たした。その経験を通して、改めて命の大切さに気付かされる。

子供の頃の夢は教師で、高校社会科・商業科教員免許を取得している。

俳優としては欽ちゃんファミリーの一員、「ザ・ベストテン」(TBS)二代目司会者として活躍。出演したドラマは「龍馬伝」、「天と地と」など多数。

2014年の大河ドラマ「軍師官兵衛」にも出演。

「今日も生きている」

あなたは生きている実感をもっていますか？ 生きていることをあたりまえだと思って実感していないのではありませんか。

小西さんは、毎朝「今日も生きている」と声に出し、生きていることを実感しています。2005年に腎臓癌で余命3ヶ月を宣告され、闘病の末、奇跡的に生還を果たしました。90日の壮絶な闘病生活を通して、生きている実感とその大切さを改めて気づかされました。

自殺する中学生・高校生が後を絶ちません。自分の命を粗末にしないために、「今日も生きている」と実感することはとても大切です。

「家にいるだけで人の役に立っている」

辛かったら、学校に行かなくてもいい。夢なんかなくてもいい。それでも、生きてはいなければならない。小西さんはこう強く訴えます。なぜなら、「家にいるだけで人の役に立っている」からです。どうして、家にいるだけで人の役に立っているのでしょうか。「お米を食べればお百姓さんの役に立つ、トイレを流せば水道局の人の役に立つ。つまり、生きていれば、たとえ人の役に立ちたくなくても立ってしまう」と小西さんは考えています。

だから、たとえ学校に行かなくても、夢がなくても、生きていれば人の役に立っている。すなわち、人の役に立ちたいのだったら生きていればいい。大事なことは「生きている」ということです。

「気持ちが病人になってはいけない」

小西さんが入院していた時のことです。「なんだか気分がすぐれないな」と思っていた小西さんはあることに気が付きます。それは、病院に入ると気持ちが病人になってしまうということです。そこで、廊下に出るときには、服を着替え、上履きに履き替えることにしました。すると、それだけで、気持ちがかなりシャキッとしたそうです。これを小西さんは毎日繰り返し、病院のなかでも病人としてではなく、社会を生きる一人の人間として過ごすことができました。たとえ病気になっても、気持ちだけは病人になってはいけない。そうすることで、「生きる」ことができるのです。

「風呂場で叫んでみよう」

「余命 3 ヶ月です。」—医師のこの言葉を聞いた日から、小西さんは外では明るく振る舞うものの、家では泣いていました。死ぬかもしれない、でも死にたくない。とてもつらい気持ちだった小西さんは、その日、風呂場で「死にたくないぞ～」と大声で叫びました。すると、その気持ちがスッキリしたのです。その日から、小西さんは毎日、風呂場で、大声で叫ぶことが日課となりました。

風呂場で叫ぶこと、気持ちを病人にしないこと、この二つが、余命 3 ヶ月と宣告された小西さんの気持ちを支えました。このように単純なことの繰り返しで気持ちを支えることも、とても大切です。

そして、病気を拒み続けるより、受け入れてしまうことが真の強さであると小西さんは語ります。病気を受け入れるということこそが、風呂場で叫ぶということにつながるのです。

「叫ぶ」ということは、僕たち中学生・高校生を含め誰にとっても大事なことだと思います。例えば、席次が 400 人中 200 番だった人が、300 番に落ちたとします。次は頑張ろうという気持ちになり、成績が上がったとします。この時、嬉しさとともに、また下がったらどうしようというプレッシャーも感じると思います。このようなどうしようもないプレッシャーは受け入れる、それが大事だと小西さんは語ります。そして、そのためになることが、風呂場で叫ぶこと。叫ぶことでプレッシャーを受け入れることこそが、叫んで病気を受け入れるのと同じく、真の強さであると小西さんは考えます。

いのちのうた

愛するあなたの大切な人が

もしこの世からいなくなったとして

あなたは暗闇の底へ突き落とされて

心は引き裂かれるほど痛むのでしょう

人は様々な痛み苦しみ

悲しみたちを乗り越えたあとに

生きていることの奇跡に気づき

そしてすべてに感謝できる

だからこそあなたのその両手で

その笑顔で大切な人を支えてあげてほしい

今しかできないこと

あなたが今できることから

何かを始めて見ようよ

命みつめてみよう

「いのちのうた活動」

小西さんは手術後、生きていることの大切さを伝える「命のうた実行委員会」の代表を務めていらっしゃいます。

「サタデープログラム

で命の大切さを実感しませんか」

小西さんが熱く語る命の大切さ、あたりまえのことを奇跡と思える一時間半です。

文責・高校 1 年 B 組 宮田大樹